

令和 2 年 度

学 校 評 価 (総 括 評 価 表) 結 果

本校の教育方針

人・社会・環境を考え、主体的に行動できる人財の育成

- ① 「人に優しい」「社会に優しい」「環境に優しい」、他者と協調・協力できる生徒の育成
- ② 「高校生としての自覚」を持ち、目標に向け主体的に行動できる生徒の育成
- ③ 次代の担い手として、地域、社会、産業に貢献できる意欲を持った生徒の育成

徳島県立城西高等学校

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題1	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見			
「城西スタンダードの確立」	<p>(全体レベル)</p> <p>生徒と教師の信頼関係のもと、温かみのある生徒指導を通して、学校に誇りを持ち、よりよく生きる力を育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①基本的な生活態度を育成する。【生徒指導課】</p> <p>②規範意識の向上を図る。【生徒指導課】</p> <p>③行動を通して豊かな心を育み、人権尊重の意欲と実践力を高める。【人権教育課】</p>	<p>評価指標</p> <p>生きる力が身についたと考える生徒【70%以上】</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>生きる力がとても身についたと答えた生徒は、25.1%、まあまあ身についたと答えた生徒は59.0で、合わせると84.1%であった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>① 学校生活が楽しいと答えた生徒は86.5%である。生きる力が身についた事が自信につながり充実した生活が送れているのではないかと思われる。しかし生活習慣が確立できていないと考えている生徒が3割を超えている。</p> <p>② 交通ルールを守れている生徒は大半であり、警察による違反に対するイエローカードの数は、昨年度の40件から22件と半減した。しかし交通事故の件数は昨年度の16件に対し、今年度は23件発生した。危険を予測して「かもしれない運転」を徹底する必要がある。</p>	<p>○学校が楽しいと答えた生徒が86.5%いることは素晴らしいことである。</p> <p>○生徒の意識調査から生きる力が身につく「思いやる心」も芽生えてきていると感じるが、教師がどう感じているかについて調べてみるのも重要である。</p> <p>○「城西スタンダード」は城西高校がめざす生徒像、あるべき姿、目標を示すものだと思うが、表紙にある3つの生徒の育成と結びつかない。生徒指導という枠の中での評価となっているので評価すべき観点小さくなっていないか、生徒を評価するなにもっと大きな観点から評価すべきではないか、生きる力の評価、生徒の意欲や判断力、協調性など多面的な評価ができるものを評価指標として取り入れるべきではないか。</p> <p>○生徒指導と人権教育からの評価となっているが、特別活動はどうなっているのか、部活動やボランティア活動、学校外での交流活動など、生徒をプラス評価できるものがもっとあるのではないか。</p>	<p>規則正しい生活ができていない生徒が3割存在している。礼儀・挨拶から始まり基本的な生活習慣の確立を促すため、起床・就寝の時間を自ら決めて実行するよう徹底する。</p> <p>交通ルールを遵守することが、そのまま将来の自動車の安全運転につながることを理解させる。</p>	
		<p>①-1 規則正しい生活ができている、またはできるようになったと答える生徒【90%以上】</p> <p>①-2 新しい生活様式・感染防止に対する取り組みができるようになった。【90%以上】</p>	<p>①-1 規則正しい生活が以前から送れている生徒は32.6%、規則正しい生活が送れるようになったと答えた生徒が34.4%であった。2つを合わせて67.0%であった。</p> <p>①-2 コロナウイルス感染防止対策ができていると答えた生徒は96.0%であった。</p>	<p>②-1 社会生活におけるルールを守っている、または守るようになった。【90%以上】</p> <p>②-2 他を思いやる言動ができている。【90%以上】</p>	<p>②-1 交通ルールをほぼ遵守している生徒は97.2%、服装や頭髪のルールがほぼ守れている生徒は86.2%であった。</p> <p>②-2 クラスや部活動、学校外において他を思いやることができていると答えた生徒は41.1%、まあまあできていると答えた生徒を含めると92.3%であった。</p>	<p>○「城西スタンダード」は城西高校がめざす生徒像、あるべき姿、目標を示すものだと思うが、表紙にある3つの生徒の育成と結びつかない。生徒指導という枠の中での評価となっているので評価すべき観点小さくなっていないか、生徒を評価するなにもっと大きな観点から評価すべきではないか、生きる力の評価、生徒の意欲や判断力、協調性など多面的な評価ができるものを評価指標として取り入れるべきではないか。</p> <p>○生徒指導と人権教育からの評価となっているが、特別活動はどうなっているのか、部活動やボランティア活動、学校外での交流活動など、生徒をプラス評価できるものがもっとあるのではないか。</p>	<p>交通ルールを遵守することが、そのまま将来の自動車の安全運転につながることを理解させる。</p>
		<p>③ 「豊かな心」や「人権尊重の意欲と実践力」に関する生徒の自己評価の向上</p> <p>【自己評価度：70%以上】</p>	<p>③ 「豊かな心」を持っているという設問に対し「そう思う」と答えた生徒が90.1%であり、人権に関する生徒の自己評価の向上がみられた。</p> <p>(道徳性に関するアンケート1回目より)</p>	<p>活動計画</p> <p>①-1 あいさつ・礼儀・言葉遣い・遅刻をしないなど社会で大切なことを、あらゆる機会を通じて呼びかける。</p> <p>①-2 時間を守ることを、規則正しい生活を送ることが社会に出ても大切なことだと理解させ、実践できるよう呼びかける。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学年集会やホームルームなどを通じて、あいさつ・礼儀・言葉遣い・遅刻をしないよう呼びかけた。毎朝登校時に教員による立哨を行った。</p> <p>①-2 月に5回以上遅刻した生徒に、その原因と改善法を考えさせる指導をした。ゆとりを持って登校することが、交通事故の防止につながることを指導した。</p>	<p>今年度は感染予防のため、月初めの全校集会で全体への指導が実施できず、校内放送での伝達が主となり、生徒への注意喚起が弱かったかもしれない。</p> <p>遅刻の回数は全体的に減少した。雨天時に遅刻が多く、車による送迎の際、渋滞に備えて早く家を出るように指導する。</p>	<p>○生活指導や規範意識の向上が図られていると思われる。</p>
		<p>②-1 法律を守ることが、他者を守り、そして自分を守ることになり、豊かな社会を作り出すことをあらゆる機会を通じて理解させる。また犯罪や交通事故などを防ぐための判断力を身につけるようホームルームや講演会を通じて身につけさせる。</p> <p>②-2 スマホの使用について、善悪の判断ができる力をホームルームや講演会を通じて身につけさせる。また、不適切な書き込みが人権問題に発展することを理解させる。</p>	<p>②-1 「薬物乱用防止」「交通安全教室」の講演、年度初めにホームルーム活動で「高校生の交通と安全」の冊子を通じて、また全校放送等を通じて安全運転について啓発した。学校周辺での事故発生場所を地図に記して各教室に掲示し、走行時に注意するよう案内した。</p> <p>②-2 全校放送・学年集会・「スマホ携帯安全教室」・朝のホームルーム等を通じて、不適切な SNS への投稿をしないよう啓発した。また SNS による犯罪の危険性を知り、被害者にも加害者にもならないよう指導した。</p>	<p>事故の増加が課題である。本校では狭い道路を利用する生徒が多く、接触事故など大きな事故には至っていないが、一旦停止など安全確認を徹底する必要がある。</p> <p>繰り返し SNS の正しい利用を呼びかけることで、不適切な使用をしないよう注意を喚起することが必要である。</p>	<p>○交通事故が多いのが気になる。事故の原因を分析し、減少するよう取り組んでほしい。</p>	<p>自転車の運転時に、危険を予知する力を付けさせる。常時「かもしれない運転」を心がけるよう指導する。</p> <p>関係機関に協力を願い、SNS の正しい利用法を学習させる。</p>	

	<p>③-1 学校人権の日資料「人権耕心」を年10回程度発行し、人権問題やその解決等についての情報を生徒に提供する。</p> <p>③-2 人権講演会を学年ごとに実施する。</p> <p>③-3 人権委員会の呼びかけで、エシカル消費につながる商品の調査を全校生徒に取り組みさせる。</p>	<p>③-1 「じんけん耕心」は1月までに8回発行し、生徒に配布した。HR活動等で活用し生徒の人権意識の向上に努めることができた。</p> <p>③-2 3学年は「デートDV防止セミナー」と「人権ってなに？」をテーマに実施した。1学年と2学年はコロナウイルス感染症予防のため実施できなかった。</p> <p>③-3 夏休みの宿題として、全校生徒に対しエシカル消費につながる商品の調べ学習を実施した。</p>	<p>人権委員会の「エシカル消費につながる商品」を探す企画の呼びかけの結果、多くの生徒から作品の提出がみられた。</p> <p>また、講演会を通じた感想文には、ほとんどの生徒が気づいたことや、考えたことを具体的に書くことができていた。講演会が一部計画通り実施できていないことが課題である。</p>	<p>○どんな商品があがったのか、この活動を通して生徒自身がどのように考えたのか興味深い点である。自己の考えを表現することは心を見つめる機会につながるもので具体的に書ける生徒が多いのはいいことだと思う。</p>	<p>生徒自身が考えたり、取り組んだ内容について発表する形を工夫する。</p>
--	--	---	--	---	---

重点課題2		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題2	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
「確かな学力の育成」	(全体レベル)	<p>生徒の総合評価「授業満足度」の向上を図る。【授業満足度：90%以上】</p> <p>①-1 すべての生徒にとってわかりやすい授業を目指し、授業を通して知識・技能が身についたと感じる生徒の増加。【学習定着度：85%以上】</p> <p>①-2 1限開始前に行う「朝のビタミン」の確認テストを、回数を増やし継続的に実施する。【年3回の実施】【テストの合格率100%】</p> <p>①-3 家庭での学習時間を増加させる。【家庭学習時間増の生徒10%】</p>	<p>生徒の授業満足度89.6%</p> <p>①-1 授業を通して知識・技能が身についていると感じている生徒は85.1%、わからないところをそのままにしないで理解しようとする生徒は74.7%であった。</p> <p>①-2 朝のSHRでの年間を通じたテキスト学習で学習習慣の定着を目指した。また、確認テストを3回実施し、合格点に達するよう再テストも行った。</p> <p>①-3 昨年度と比較し、1時間程度 of 家庭学習をする生徒は13.4%から18.8%に増加した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>① 生徒の自己評価では、授業や実習、課題に意欲的に取り組んでいる生徒の割合が高い。また、朝の学習に真面目に取り組んでいると答えた生徒は85.4%で、決められた時間に決められた課題に取り組む習慣は定着しつつある。しかし、学習や学力が定着してきているとは言い難い。誰もが実感できる学力の定着・向上を目指す方策を考えなければならぬ。</p> <p>② 各教科から出された授業実践例を他教科とも共有する教科間の話し合いを持ち、さらに授業力向上に努めたい。</p> <p>③ 生徒の図書館の本の貸出冊数は目標を達成したが、昨年と同じ割合である。</p>	<p>○「確かな学力」という知識・技能だけでなく、思考力や判断力、表現力、人間性などが入ってくると思うが、これを評価するのは難しい。現評価指標では生徒の学習面での評価(学力評価)が中心となっているがそれ以外の評価を考えてみてはどうか。</p> <p>○努力する生徒が増えている。授業満足度89.6%という数値から先生方が工夫しているのがよくわかる。また、発表の機会は授業改善が生徒の姿となって現れるので、積極的に発表する機会を持つことが大事である</p> <p>○日々の取り組みの結果が現れてきていると思う。学習習慣や読書習慣は1日、2日のできるものではないので、先生方は大変だと思うが、こうした取り組みを継続することで習慣化する。それが、生徒の力となり、自信となる。</p> <p>○座学ばかりではなく、グループワーク等で話し合う機会を設けることが重要と思う。</p>	<p>頑張ろうとする生徒をさらに伸ばしていく指導体制を確立していく。各教科で実践している様々な取り組みを他教科と共有するための話し合いを持ち、生徒にとってさらに有効な授業を実践していく。</p> <p>生徒各自がタブレットを持つようになるので、タブレットの有効な活用法や授業実践法を作成する。各課と連携し、授業のオンライン講座や課題作成を推進していく。</p> <p>生徒の「振り返り」を導入し、自己評価をさせたり、文字に起こすことで自分を見つめさせ、次のステージへとつなげる。</p>
	(下位組織レベル)	<p>①ユニバーサルデザインの授業を通して生徒が主体的に学ぶ学習意欲を養成する。【進学課】</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの創造に向けての授業改善に努める。【進学課】</p> <p>③読書習慣の定着化、読書の生活化を推進する。【図書課】</p>	<p>② 主体的・対話的で深い学びの授業実践に取り組む。【各教科で2例以上の作成、年1回以上の授業実践】</p> <p>③ 生徒の図書貸し出し数の増加を図る。【生徒の図書貸出率：60%以上】</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 各教科で、毎時間授業内容をチェックし生徒の取り組みや理解度を確認している。机間指導を頻繁に行って生徒がつまづいているところを把握し、適切な声かけや個別指導をしている。小テストを複数回実施し、定着度が低い生徒には再テストも実施している。検定取得を目指す授業では個々の生徒に対応した教材を準備し、習熟度別学習を行った。</p> <p>①-2 「朝のビタミン」学習範囲のテストを各学期1回計3回実施した。また、授業内で基礎基本となる知識の振り返りを実施し</p>	<p>○「確かな学力の育成」には、学校側、教師側のしかけが重要になってくると思われるが、そのために教育課程の編成から実施、改善までが必要となる。そのための評価(カリキュラムマネジメント)はどうなっているのか。</p>	
			<p>①-1 教室環境や授業の進め方、個々の生徒の特性や学習速度に合わせて複数の学習方法や教材を準備する。</p> <p>①-2 「朝のビタミン」で学習習慣を定着させ、達成感を育てるため段階的に設定したテストを複数回実施し、学力定着度の向上並びに成就感を持たせる。また、授業の中で学び直しの時間を確保し、基礎学力の定着を目指す。</p> <p>①-3 家庭での学習時間調査を年2回実</p>			

	<p>施し、生徒の学習意欲向上を目指す。</p> <p>② 主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践例を作成し、各教科で共通理解を図るとともにグループディスカッションやプレゼンテーションなどの手法を用いた授業を少なくとも年1回展開する。また、カリキュラム・マネジメントに関する知識を深めるため、教員研修会を開く。</p> <p>③ 「図書館だより」等による啓発（読書のすすめ、新刊紹介、図書委員によるお薦め本の紹介等）を推進する。</p>	<p>た。</p> <p>①-3 家庭学習時間調査は1回実施した。昨年度と比較し、考査前は2時間以上学習する生徒が22.4%から41.7%に増加した。また、普段の家庭学習を1時間程度する生徒が増えた。</p> <p>② 小グループで話し合ったことを発表したり、生徒同士で教え合う授業が実践されている。また、学んだことを校内だけでなく近隣の幼稚園などでも発表した。教員研修会はコロナ禍のため今年度実施できていない。</p> <p>③ 前期・後期の図書委員に推薦図書と紹介文を書いてもらった。また、各HRには「エンカル消費」に関する本も置いてもらった。しかし、本を手にとって読む生徒は少なかった。</p>	<p>とにより「家庭学習時間0」の生徒はやや減少したと思われる。しかしながら、学力差はいまだ顕著であり、生徒の実態に沿った課題の在り方を工夫する必要がある。</p> <p>② グループや個人で調べ、学習したことや学んだことを発表する授業に積極的に取り組んでいると答えた生徒が昨年度41.7%から今年度は81%と昨年度より増えた。学んだことをアウトプットすることで理解を深め、達成感や自信も持たせたい。</p> <p>③ スマートフォンの普及で、紙媒体の本離れが進んでいる。しかし、きちんとした文章や知識を吸収することは大切である。本の活用を少しでも増やしたい。</p>	<p>○対話することが苦手な生徒が増えていられるのでその指導もお願いしたい。</p> <p>○図書を身近に感じ、触れやすい環境作りに努められていると思う。本という宝を感じさせる活動を今後も期待する。</p>	<p>グループ学習や調べ学習等を積極的に取り入れ、生徒自らが学ぼうとするしかけ作りを教員一人一人が研究する必要がある。発表等の授業ではペア同士による意見交換から始めて次第にグループ活動へと高めていけるよう段階を踏んで指導していく。</p> <p>本を手にする機会が少ない。そのためにスマートフォンの情報だけでなく、正確な言葉で書かれた新刊の紹介や本の展示を行っていく。</p>
--	--	--	--	---	--

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題3	重点目標	評価指標と活動計画	評価 価	学校関係者の意見		
「社会的自立と進路実現」	<p>(全体レベル)</p> <p>主権者としての自覚を促し、各学科の目的に応じたキャリア教育を推進する中で、社会的自立に必要な能力・態度を育成し、生徒の進路実現に努める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①主権者としての自覚を高めるための主権者教育を推進する。 【主権者教育担当者】</p> <p>②自己の進路を見出すためのキャリア教育を推進する。 【就職課】</p> <p>③一人一人の教育的ニーズを把握し、生徒の進路実現を支援する。 【就職課】</p>	<p>評価指標</p> <p>進路決定率100%を目指す。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>進路決定率 99.4% (1月末現在)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>コロナ禍により求人状況は昨年と比べると、県内求人が40件減少、全体では140件減少であった。また、就職試験の開始が1か月遅れとなり、従来のような進路指導の進め方ができなかった。しかし、進路決定者の進路に対する満足度は高かった。企業訪問はできなかったが、企業への電話連絡や企業からの来校対応によって得られた情報を活用することができた。企業への応募前見学はミスマッチ防止のために有効だった。安易な進路選択にならないよう、企業の情報収集をして、自分に合う企業を選んで就職したいという気持ちを高めて、そのために学力を充実させて受験させることが課題である。</p>	<p>○主権者教育は、「公民」の科目の中で2020年度より本格的に教えることになっているので、今は試行期間になるが、政治に参加するための素養を育てる大事な時期だと思っているので、しっかりやってほしい。</p> <p>○各教科で狙いをもった実践が行われていると思われる。○進路決定率及び満足度が99%超となっており、一人一人の進路が実現できている。丁寧な情報収集や応募前見学の成果が表れている証拠です。</p> <p>○進路は一生に1度のことなので、引き続き適切な指導をお願いしたいのと、卒業後のフォローもお願いしたい。</p> <p>○就職希望者が少なくなってきたようだが、将来の社会人の基礎を育てることに変わりはないので、就職、進学希望者ともに必要な力を育ててほしい。</p>	<p>今後も教育活動全般を通して主権者教育に必要な資質を育む授業を計画する。また、新科目「公共」の授業について準備を始める。</p> <p>今後も進路実現に向けて、生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していくことが必要である。自分の希望に合う企業を選び、就職したいという気持ちを高め、そのために必要となる学力を充実させて受験させることが課題である。</p>
		<p>①-1 主権者に必要な資質(問題を捉え、考え、判断し、行動する力)を授業で育む指導を実践する。 【実践教科：5教科以上】 【教科別の取組実践例：1例以上】</p> <p>①-2 教職員への主権者教育のための研修資料を作成・配付 【年5回以上】</p>	<p>①-1 12教科で実施することができた。主権者として必要な資質を育てるという観点で教科等の指導を捉え直したため、実践は毎年実施していた内容が多くなった。実践例の検討は今後の課題となった。</p> <p>①-2 1回実施した。2月に4回実施予定。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>コロナ禍により求人状況は昨年と比べると、県内求人が40件減少、全体では140件減少であった。また、就職試験の開始が1か月遅れとなり、従来のような進路指導の進め方ができなかった。しかし、進路決定者の進路に対する満足度は高かった。企業訪問はできなかったが、企業への電話連絡や企業からの来校対応によって得られた情報を活用することができた。企業への応募前見学はミスマッチ防止のために有効だった。安易な進路選択にならないよう、企業の情報収集をして、自分に合う企業を選んで就職したいという気持ちを高めて、そのために学力を充実させて受験させることが課題である。</p>	<p>○主権者教育は、「公民」の科目の中で2020年度より本格的に教えることになっているので、今は試行期間になるが、政治に参加するための素養を育てる大事な時期だと思っているので、しっかりやってほしい。</p> <p>○各教科で狙いをもった実践が行われていると思われる。○進路決定率及び満足度が99%超となっており、一人一人の進路が実現できている。丁寧な情報収集や応募前見学の成果が表れている証拠です。</p> <p>○進路は一生に1度のことなので、引き続き適切な指導をお願いしたいのと、卒業後のフォローもお願いしたい。</p> <p>○就職希望者が少なくなってきたようだが、将来の社会人の基礎を育てることに変わりはないので、就職、進学希望者ともに必要な力を育ててほしい。</p>	<p>今後も教育活動全般を通して主権者教育に必要な資質を育む授業を計画する。また、新科目「公共」の授業について準備を始める。</p> <p>今後も進路実現に向けて、生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していくことが必要である。自分の希望に合う企業を選び、就職したいという気持ちを高め、そのために必要となる学力を充実させて受験させることが課題である。</p>
		<p>②-1 進路実現に向けての生徒の満足度の向上を図る。【満足度：90%以上】</p> <p>②-2 応募前見学の実施【1人1社以上】</p>	<p>②-1 進路決定満足度 99.3%</p> <p>②-2 各自が1社以上、企業への応募前見学を行い、自分の希望に合う企業選びや就職への意識付けを行った。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>コロナ禍により求人状況は昨年と比べると、県内求人が40件減少、全体では140件減少であった。また、就職試験の開始が1か月遅れとなり、従来のような進路指導の進め方ができなかった。しかし、進路決定者の進路に対する満足度は高かった。企業訪問はできなかったが、企業への電話連絡や企業からの来校対応によって得られた情報を活用することができた。企業への応募前見学はミスマッチ防止のために有効だった。安易な進路選択にならないよう、企業の情報収集をして、自分に合う企業を選んで就職したいという気持ちを高めて、そのために学力を充実させて受験させることが課題である。</p>	<p>○主権者教育は、「公民」の科目の中で2020年度より本格的に教えることになっているので、今は試行期間になるが、政治に参加するための素養を育てる大事な時期だと思っているので、しっかりやってほしい。</p> <p>○各教科で狙いをもった実践が行われていると思われる。○進路決定率及び満足度が99%超となっており、一人一人の進路が実現できている。丁寧な情報収集や応募前見学の成果が表れている証拠です。</p> <p>○進路は一生に1度のことなので、引き続き適切な指導をお願いしたいのと、卒業後のフォローもお願いしたい。</p> <p>○就職希望者が少なくなってきたようだが、将来の社会人の基礎を育てることに変わりはないので、就職、進学希望者ともに必要な力を育ててほしい。</p>	<p>今後も教育活動全般を通して主権者教育に必要な資質を育む授業を計画する。また、新科目「公共」の授業について準備を始める。</p> <p>今後も進路実現に向けて、生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していくことが必要である。自分の希望に合う企業を選び、就職したいという気持ちを高め、そのために必要となる学力を充実させて受験させることが課題である。</p>
		<p>③-1 企業への電話連絡を行い、求人票の獲得及び就職定着度の向上につなげる。 【企業への電話連絡：50社以上】</p> <p>③-2 進路ガイダンスの充実を図る。</p>	<p>③-1 昨年度の3年担任と今年度の3学年の正・副担任で44社、就職課で15社に電話連絡し、卒業生のアフターケアや求人票の獲得を行った。</p> <p>③-2 進路ガイダンスは3月に実施予定。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>コロナ禍により求人状況は昨年と比べると、県内求人が40件減少、全体では140件減少であった。また、就職試験の開始が1か月遅れとなり、従来のような進路指導の進め方ができなかった。しかし、進路決定者の進路に対する満足度は高かった。企業訪問はできなかったが、企業への電話連絡や企業からの来校対応によって得られた情報を活用することができた。企業への応募前見学はミスマッチ防止のために有効だった。安易な進路選択にならないよう、企業の情報収集をして、自分に合う企業を選んで就職したいという気持ちを高めて、そのために学力を充実させて受験させることが課題である。</p>	<p>○主権者教育は、「公民」の科目の中で2020年度より本格的に教えることになっているので、今は試行期間になるが、政治に参加するための素養を育てる大事な時期だと思っているので、しっかりやってほしい。</p> <p>○各教科で狙いをもった実践が行われていると思われる。○進路決定率及び満足度が99%超となっており、一人一人の進路が実現できている。丁寧な情報収集や応募前見学の成果が表れている証拠です。</p> <p>○進路は一生に1度のことなので、引き続き適切な指導をお願いしたいのと、卒業後のフォローもお願いしたい。</p> <p>○就職希望者が少なくなってきたようだが、将来の社会人の基礎を育てることに変わりはないので、就職、進学希望者ともに必要な力を育ててほしい。</p>	<p>今後も教育活動全般を通して主権者教育に必要な資質を育む授業を計画する。また、新科目「公共」の授業について準備を始める。</p> <p>今後も進路実現に向けて、生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していくことが必要である。自分の希望に合う企業を選び、就職したいという気持ちを高め、そのために必要となる学力を充実させて受験させることが課題である。</p>

		【満足度90%以上】				○本課題への取り組みが十分に なされているが、「不満足度」 や内容に対する「振り返り」の 機会を持つことも重要である。 やはり、PDCA (Plan → Do → Check → Act) サイクルを回して 改善を進めるべきである。 ○評価指標として「成果」に対 する評価が少ないように思う。 3年間の教育の集大成である進 路の評価だから、学校や生徒の 頑張りを評価する項目がもっと あってもいいのでは。進路決定 率があるのはよい。	
		③-3 関係機関等との連携活動を推進す る。 【連携活動件数：年50件以上】	③-3 連携活動件数50件以上				
	活動計画	①-1 学校全体で共通理解を図り、取組 を進める。各教科や各学科で、主権 者として必要な資質を育む取組み を実践し、主権者教育に位置づける。 ①-2 教職員が主権者教育や政治の話題 を共有できるような資料を作成する。	活動計画の実施状況	①-1 主権者に必要な資質について共通理 解し、各教科等で検討して年間計画を 作成し、各授業で実施した。一部計画 通りに実施できなかったものもあるが、 おおむね計画通りとなった。 ②-2 新聞記事や関連書籍をもとに資料を 作成している。	各教科で行ってきた取組が 主権者として必要な資質を育む ことにつながっていることを確 認し、あらためて教科指導を主 権者教育の視点で見直し、意識 的に授業で取り組むことができ た。主権者教育に関する教職員 研修の充実が課題である。		
		②-1 キャリア・パスポートを活用し、 振り返りをしながら、学びを記録し、 目標に向かって計画的に取り組ませ る。 ②-2 ミスマッチ防止を図るための企業 訪問を行う。	②-1 キャリア・パスポートを活用できた と答えた生徒は全体の76.4%であった。 企業訪問の記録は志望理由の作成や面 接対策に役立った。 ②-2 就職希望者延べ63名が36社に応募 前見学を行い、その中から自分に合う 企業を選んで受験した。	コロナ禍の影響で求人数が少 なめであったが、就職希望の生 徒も少なく、企業選択に困るこ とはなかった。企業にはこのよ うな状況でも応募前見学を快諾 していただき有難かった。	○キャリア教育をどう捉えて いるのか、はっきりしない。社 会的、職業的自立のために必要 な能力とは何か、キャリア発達 にかかる諸能力を育成するため に何をするのか、電話連絡、イ ンターンシップ、企業訪問等 で評価するのがキャリア教育な のか？ ○新型コロナが学校教育にも影 響を及ぼし、進路指導に不安材 料となったが、その中で進路決 定にほとんどの生徒が満足して いるのはすばらしい！ 社会に 出た後、自立していけるキャリ ア教育を徹底して行ってほし い。	○キャリア教育をどう捉えて いるのか、はっきりしない。社 会的、職業的自立のために必要 な能力とは何か、キャリア発達 にかかる諸能力を育成するため に何をするのか、電話連絡、イ ンターンシップ、企業訪問等 で評価するのがキャリア教育な のか？ ○新型コロナが学校教育にも影 響を及ぼし、進路指導に不安材 料となったが、その中で進路決 定にほとんどの生徒が満足して いるのはすばらしい！ 社会に 出た後、自立していけるキャリ ア教育を徹底して行ってほし い。	企業との情報交 換や卒業後のアフ ターケアの継続に 取り組む。また、 生徒の応募前見学 への参加を勧める。
		③-1 昨年度就職した企業へ連絡を取り、 定着のための情報交換や、新規 求人依頼をする。 ③-2 進路実現に向けて生徒の意識付け を図る進路ガイダンスや進路講演会 を実施する。 ③-3 上級学校、ハローワーク、専門機 関と密接に連携する。	③-1 昨年度就職した企業53社のうち44社 へ電話による、定着のための情報交換 やアフターケアを行った。 ③-2 1年生対象に小論文や志望理由の書 き方講座を実施した。 ③-3 県内上級学校を中心に生徒が志望 している進学先と連携し、進路実現に つなげた。就職に関しては求人票の様 式が変わり、指定求人の有無がわかり にくくなったためハローワークと電話 による情報交換を随時行った。	企業への訪問はできなかった が、電話で情報交換ができた。 専門機関と密接に連携し、情 報交換することで、学校だけで 指導することが難しい生徒に対 してもきめ細かい指導をすること ができ、進路決定につなが った。	○「一人一人の教育ニーズの把 握とは」進路ガイダンス、進路 講演会等で生徒の意向、希望を 知ることだけで、個々の教育の ニーズの把握となるのか。生徒 理解、生徒の興味関心の方向性 など、生徒自身の問題に迫る内 容はないのか？キャリア・パス ポートの活用以外に何かないの か？	生徒の進路希望 に応じた進路ガイ ダンス等を実施す るとともに、生徒 の視野を広げるよ うな進路指導をし ていく。 また、関係諸機 関との密接な連携 を継続していく。	

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題4	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見		
「エシカルな視	(全体レベル)	評価指標 一人一人の生徒が様々な教科や特別	評価指標による達成度 コロナ禍により、多くの活動が自粛や	総合評価	○まず、重点課題の説明文がわ	全校生徒および

<p>点に立った行動の推進」</p> <p>持続可能な社会の実現に向けたエシカルな行動を主体的に考え、多様な教育活動へと展開する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①人・社会・地域を大切にしたい全てに関わる実践活動を推進する。【農業科】【総合学科】</p> <p>②環境に配慮する中で環境に関わる活動を推進する。【環境課】</p>	<p>活動を通し、エシカル消費を实践できることを目標とする。 【自己評価実践度：60%以上】</p>	<p>中止が相次ぐ状況であったが、生徒が主体的にエシカル消費の浸透に向けて活動を展開し、情報発信することができた。エシカル消費を实践している生徒は72%であった。</p>	<p>(評定) A</p> <p>(所見) ①-1 素材の組み合わせや大きさなど、生徒が試行錯誤を重ね、試食会を開くなど主体的に活動することができた。 ①-2 専門家の方から指導を受けたり、生徒がデザインを考え商品開発したりするなど、エシカルの視点に立った活動が展開できた。 ①-3 アグリマイスター認定については、シルバー認定に僅かに届かず、認定に至らなかった。 ①-4 「届けよう、服のチカラ」プロジェクトでは、校内のみでの活動と規模は縮小されたが、全体では10箱（昨年は11箱）と昨年度と同程度の回収が実現した。各教科・科目でのエシカルな観点に基づく授業の取組例では、生徒による啓発ポスターづくりなどの取組が見られたが、いずれの教科・科目とも授業者に依存するところは大きい。</p>	<p>かりにくい。「主体的な行動」とは、生徒のことなのか、それとも学校の取り組みなのか。</p> <p>○エシカルな行動が「エシカル消費」だけではない。確かにエシカル消費は高く評価できるが、生産に結びつくものが欠けているように思うのでSDGsにつながるよう、また、城西高校だからこそできるエシカルな生産活動を含めて高めていってほしい。</p> <p>○生産面でのエシカル活動にチャレンジして欲しい。商品開発などの活動が新聞に掲載されると城西高校の情報発信が県民に広く伝わってきていることを実感する。</p> <p>○エシカル活動は多分野で取り組みがなされているが、今後は総合学科における取り組みの幅を広げて欲しい。今年度は、コロナの影響で地域との連携や貢献活動が十分に実践できなかった部分が多かったと思われるが、今後も頑張ってもらいたい。</p>	<p>教職員がSDGsに主体的に関わり、学習を通して成果を情報発信する。</p> <p>食品ロスの視点に立ち、規格外農産物の有効活用や校内の植物の活用など、各科や専攻の連携をさらに密にし、商品開発をめざす。</p> <p>環境や生活に負荷をかけない循環農業からエシカル生産を展開することで、エシカル消費につながることを再認識させる。</p> <p>エシカル消費やエシカルな活動を通して、危機管理とも関連づけてさらなる浸透を図る。</p>
	<p>①-1 校内で栽培された農作物の中で、規格外物品の活用による商品化を推進する。 【規格外の商品化：2品目以上】</p> <p>①-2 校内の草花や藍を用いたキャンドルやサシェ等の商品化を推進する。 【2品目以上の作成】</p> <p>①-3 さまざまな実践活動に取り組む。 【アグリマイスターの取得：5人以上】</p> <p>①-4 1年生の総合学科による「総合的な学習」の取り組みとして、ユニクロとの協力による「服のチカラプロジェクト」を推進する。また、全学年においてエシカルな観点に基づいた授業を取り入れる。</p>	<p>①-1 校内で栽培された規格外農産物を活用し、3品目を商品化することができた。</p> <p>①-2 校内の植物を素材に、使用しなくなったロウソクを活用し、2品目を作成した。</p> <p>①-3 アグリマイスター認定0人。</p> <p>①-4 「届けよう、服のチカラ」プロジェクト活動（1年）を通して、本年度も校内のみと規模を縮小して、難民キャンプへの子供服送付が実施できた。また家庭基礎（1年）・家庭総合（2年）の授業を通じたフードロスの啓発や、地理演習（3年）の授業を通じたカカオ産地の現状やサステイナブルなカカオ輸入先について考察し、啓発ポスターづくりを行うなど、各学年においてエシカルな観点に基づいた授業を行った。</p>	<p>② コロナ禍により、活動の自粛や中止となり地域住民との連携活動が出来なかった。</p>	<p>② 校内活動において、美化活動や分別活動に積極的に取り組むことができた。</p>	<p>今後も継続的に取り組み、持続可能な社会の実現に向けて貢献できる実践力を身につけさせたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①-1 6次産業化について学ぶアグリビジネス科を中心に、商品開発を行い販売につなげ、「食品ロス削減」とともに儲かる農業の实践をする。</p> <p>①-2 校内の草花を用い、ドライフラワーやサシェを製作し、震災時の灯りとして、車中避難生活の癒やしのアイテムとして活用するとともに、学校祭などで販売し、本校の農産物の広報につなげる。</p> <p>①-3 ボランティア学習や課題研究等の活動を通して、アグリマイスター認</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 食品削減ロスをめざし、規格外農産物を活用し、ナシを活用したレトルトカレー、サツマイモを加工した干しいも、ナシとニンジン加工したジャムを商品化することができた。レトルトカレーは、災害時の非常食にもなるよう、パッケージも生徒がデザインした。</p> <p>①-2 マリーゴールドやパンジー、ハナモモやキンモクセイなどを素材に、サシェとアロマキャンドルを作成し、癒しの香りを詰め込んだ。完成したものを近隣の福祉施設や幼稚園に届けたり、新聞にも活動が掲載されるなど情報発信にもつながった。</p>	<p>①-1 アグリビジネス科では、カレーに規格外のナシを取り入れてレトルトカレーを完成させ、校内の備蓄庫で非常食として保管している。また、JA 東とくしまと連携し、ナシジャムの商品化に取り組んだ。さらに食品科学科でも商品化を目指している。HPへの掲載や販売を通して、情報発信することができた。</p> <p>①-2 エシカル消費に重点を置き、身近な素材を活用して、サシェとアロマキャンドルを制作できた。近隣施設への配布や取材を受けるなど、情報発信にもつながった。素材の偏りやドライフラワーの準備が課題である。キャンドルは災害時の灯りとして、サシェは避難生活時のリラックス効果期待できるフレグランスアイテムとして活用が望まれ</p>	<p>○顕著な成果が徳島新聞の「規格外農産物によるレトルトカレー」で取り上げられていた。災害列島日本でもエシカル活動と危機対応をまさにリンクさせた実践教育である。すばらしい評価ができる。</p> <p>○コロナ禍で活動が制約される中で積極的によくやっていると感じる。</p>	<p>食品製造関係だけでなく、生産系の分野でも協働で商品開発を展開し、情報発信を図る。</p> <p>GAP や HACCP の認証を継続し、エシカルな生産を実習を通して身に付け、生徒の活動を情報発信する。</p> <p>資格取得やアグリマイスター認定などを通して、農業高校生としての自己肯定感を高める。</p>

	定に結びつける。	①-3 コロナ禍により、活動が自粛や中止となり、取得に結びつかなかった。	る。		
	①-4 2学期に本校や近隣の幼稚園で収集した子供用衣料をユニクロに送って難民キャンプなどに役立ててもらい学習を通して、エシカルの考えを学ぶ。	①-4 収集の活動は校内のみに限定され、1.454枚・10箱分の子供用衣料とメッセージを、ユニクロを通じて送付した。特に難民キャンプへのメッセージは、世界の状況や自分たちにできることを通じてエシカルの考えを学ぶ良い機会となった。	①-3 活動の機会が少なく、実績を積むことができなかった。プロジェクト活動や資格取得に向けて、入学時から計画的なサポートを図っていききたい。		
	②-1 生徒会役員や整美委員会を中心にした環境 ISO やエシカル消費の関係を学習し、近隣の河川の清掃活動を地域住民とともに行う。	②-1 整美委員会を中心としたゴミの分別作業を毎週行い、ゴミの軽量、リサイクルの徹底を通じ、物を大事にする気持ちを育てることに繋げ、エシカル消費を推進した。	①-4 活動が校内のみに限定され近隣の幼稚園での活動は困難となったものの昨年とほぼ同様の1.454枚・10箱分の子供用衣料とメッセージを送付した。	○ゴミの分別は全校生徒の常識になることを期待します。	今後はより細分化した分別の方法を取り入れて、実践できるようにしていきたい。
	②-2 校内活動として節電、節水の結果を分析するとともにエシカルな観点から評価し、内容（水道料金や電気料金などの推移をグラフ化したもの）を掲示する。	②-2 整美委員会を中心に各 HR で節電・節水に協力するよう呼びかけることはできたが、水道料金や電気料金などの推移をグラフ化し掲示することは出来なかった。	②-1 整美委員会によるゴミの分別作業は100%実施できた。		
			②-2 整美委員会の呼びかけだけでなく、毎日放課後の点検を実施していきたい。		

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題5	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	
「命を守る安心・安全な学校づくり」	(全体レベル)	評価指標 避難訓練の実施 【年3回以上】 防災訓練の実施 防災クラブの活性化を推進する。	評価指標による達成度 避難訓練を4・6・9・11月の4回実施 10月・12月に実施予定だったが中止 11月に地域と連携した訓練を実施及び2月下旬に訓練予定	総合評価 (評定) B (所見)	「校内避難訓練」・「各種研修や訓練の実施」・「防災クラブの活性化」の3つを軸にして、防災意識の向上と実践力の習得を目標に活動していきたい。
	(下位組織レベル)	①-1 朝食摂取率を向上させる。 【朝食摂取率：80%以上】 ①-2 五大栄養素に関する知識を定着させる。 【知識定着率：80%以上】 ①-3 歯科検診の二次受診率を向上させる。 【二次受診率：30%以上】	①-1 6月に朝食摂取率のアンケートを実施した結果、65.8%であった。2月下旬に2回目のアンケートを実施する予定 ①-2 保健の授業を通して五大栄養素の役割と人体との関係性について指導した。 ①-3 歯科衛生士による指導、生徒と保護者への受診を喚起したが、受診率は30%に届かなかった。	①-1 3年前の集計と比較すると10%以上向上している。生活が安定してきていると考えられる。 ①-2 五大栄養素の理解が健康な体づくりにつながる事を理解できたと考えられる。 ①-3 歯周病や歯の放置が将来の健康問題を引き起こす事に対して関心が薄いと考えられる。	
	①食生活の改善のために食育を推進し、健康意識の向上を図る。【保健厚生課】	②-1 防災に関する意識の定着を図る。 【知識定着率：60%以上】 ②-2 地域と連携した防災避難訓練の実施を推進する。【地域連携による防災避難訓練の実施：1回以上及び参加人数150名以上】 ③-3 学校周辺の危険箇所の確認の実施 【1回以上】	②-1 防災に関する知識問題の正解率60%以上の者が約2割程度しかいなかった。 ②-2 地域と連携した防災避難訓練をコロナ禍の関係で少人数で実施した。 ②-3 年度初めに加茂名地区危険箇所マップを全校生徒に配布した。	②-1 問題の内容により正解率は変わってくるが、知識の定着はある程度できてきている。 ②-2 中止の意見もあったが少人数でも実施できてよかった。また、新たな避難所運営を知るきっかけができた。 ②-3 地図上で危険箇所を確認することができ、災害時に自分	○防災に関する活動として、確かに避難訓練や防災訓練などは重要だが、防災意識を高めるための防災教育はどうなっているのか、一人一人の防災力向上の取り組み、意識を向上させるための取り組みをどうすべきか、学校全体としての防災教育の位置づけを明確にしてほしい。 ○朝食摂取率の向上は喜ばしいこと。「食育だより」の効果が出ているのではないかな。 ○歯科二次検診の受診率は以前課題である。保護者の理解を得るための方策を考える必要がある。 ○少人数でも地域と連携した防災訓練はやる意義がある。地域と結びついた活動を続けていってほしい。 ○コロナ禍を想定した訓練も必要と思われる。

		<p>活動計画</p> <p>①-1 衛生面への指導・注意喚起を含め、朝食摂取の重要性を生徒厚生委員会を通して働きかけ、その成果と課題を学校保健委員会で検討する。</p> <p>①-2 「食育だより」の充実を図り、確認アンケートを実施する。</p> <p>①-3 歯の健康が健康増進につながることを「保健だより」等で周知し、受診率向上をめざす。</p> <hr/> <p>②-1 防災避難訓練・心肺蘇生講習会（応急手当等を含む）を実施し、防災に関する意識向上を図る。</p> <p>②-2 防災クラブを中心に、地域と連携した防災避難訓練（参集・誘導・受付・間仕切り・その他）の実施</p> <p>②-3 加茂名地区の避難支援マップを活用し、危険箇所等を確認する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、消毒・マスク装着の徹底を働きかけた。学校保健委員会で朝食摂取、歯科保健教育・感染症対策について、学校医、学校歯科医、学校薬剤師より、助言をいただいた。</p> <p>①-2 食物研究部の生徒とともに「食育だより」を発行して食に関する基礎知識と大切さを紹介し、食に関するアンケートを実施した。</p> <p>①-3 歯の健康に関する「保健だより」の発行および歯科衛生士による歯科保健指導を実施した。</p> <hr/> <p>②-1 各種研修や訓練が中止になった。別の形で防災意識の向上を高めたらよかった。</p> <p>②-2 地域や防災クラブ員の人数を縮小し、内容も工夫して行った。</p> <p>②-3 自分の通学路の危険箇所を確認するように指導した。</p>	<p>の身を守る行動に役立つと思われる。</p> <p>①-1 学校保健委員会では、口と体の健康が関係していること、コロナ禍で注意すべき感染症対策等について、学校医・学校歯科医・学校薬剤師と協議することができ、非常に有意義な会となった。</p> <p>①-3 う歯率の減少が見られたが、受診率の向上に向け、今後も継続的な歯科保健教育を実施する必要がある。</p> <hr/> <p>②-1 消防署等関係諸機関と相談し、各種研修の形を変えて実施できればよかった。</p> <p>②-2 これからの避難所運営を理解するため段ボールを使ったパーティション作りを体験することができた。</p> <p>②-3 通学時の発災対応力の育成に役立てる。</p>	<p>○虫歯の生徒が多いこと、肥満気味の生徒がいることなどが気になります。</p> <p>○う歯の治療は重要と思うので、しっかりやってほしい。</p> <p>○地域と連携した防災訓練はいいことであるが、訓練の中身について細かい評価表を作る必要がある。準備段階について、当日の役割分担や行動について、結果などの評価を作成すれば、課題が明らかになり、生徒の実践力の評価にもつながる。</p>	<p>感染症対策として手指消毒やマスクの着用を徹底させる。</p> <p>受診率の向上と未処置歯者率の減少に向け、学校医や関係機関と連携し、歯科保健健康教育を実施する。</p> <p>1学年のすべての生徒に各種訓練を実施することは実践力をつけるためには有効であり、是非実施の方向で計画したい。 地域と連携した訓練をこれからも継続していきたい。</p>
--	--	--	--	--	---	---